

バイオディーゼルのNEWS

B-style VOLUME 03

2005年BAOクラブ設立！！ BDF使用者の一般・法人会員を全国で募集開始！

廃食油再生燃料化装置 EOSYS の導入実績が、大型機から小型のレンタル機も含め、全国各地で 100 台を超えました。(100 台突破記念イベントを企画中)

バイオディーゼルに対する一般の方々の関心も非常に高まり、弊社でも昨年よりたくさんのお問合せを頂くようになりました。しかし、全国各地に渡る「BDF を使用したい」とのご要望にお答えすることが、物理的に不可能な状況でした。

2005 年 1 月、北海道から沖縄まで、EOSYS 導入先も広がりそれぞれの地方別には供給できる状態になってきていると判断し、「バイ

オディーゼルの供給を会員化し、さらに広くバイオディーゼルの普及を促進するべく、BAO クラブを設立することに致しました。

正式な立ち上げをするに当たっては、今まで様々な問題(インフラの整備等)がありました。また、不特定多数のユーザーに BDF を供給する訳ではないのですが、やはり供給者の責任はあると感じていたので。

またまた、現状でも不備はあると思われ、... 地球環境の為、社会的責任を果たして行く為、BDF を普及促進する為に、使用者の会員化は有効な手段と考えました。

BAO クラブは、BDF を購入して頂ける会員登録だけでなく、いろいろな特典を付けたり等、面白い事をたくさん考えています。ご期待下さい。



(カードデザイン考案中)

長崎県福江市、皆さんどこかわかりますか？

EOSYS-50 のレンタルシステムが始まり 1 周年を迎え、公にバイオディーゼル事業のご案内をダイレクトメールにてさせて頂きましたところ、多数のご連絡を頂きました。有難う御座います。

その中から、長崎県五島市での取組みについて、ご紹介させていただきます。

社会福祉法人さゆり会みつたけ荘、五島列島の島々を見渡せる風光明媚な丘の上に、精神障害の通所授産施設として活動を始めました。

福江市の人口は約 3 万 5 千人、島内を車で一周し約 3 時間。バイオディーゼル事業は、北海道から沖縄まで様々な場所で始まっていますが、離島で設置されるのは今回が初めてのケースです。



事業状況としては決してめくまれた環境ではないと思いますが、この事業の意義の深さを同法人の理事長が熱く話してくれたことをいまでも憶えています。

「この事業を通じ地域の方々と交流を積極的に行い、利用者の方に今以上に社会とのつながりを持ってもらいたい。また五島は自然環境にめくまれた場所、この環境を守る意味でも非常に大きな意義がある。」今までに無い感銘を受けました。



2005 年より、下記の社会福祉法人の方が取組みを始めました。

- ・鳥取県西伯郡 柿木村福祉会 柿木村共同作業所
- ・青森県むつ市 みちのく福祉会 工房「歩み」
- ・長崎県五島市 さゆり会 みつたけ荘
- ・香川県坂出市 若竹会 八十場若竹園

BIO DIESEL NEWS バイオディーゼルニュース

新年明けましておめでとうございます。食用廃油再生燃料化事業は、「旬」の時期にさしかかろうとしています。2005 年は、更なる飛躍を目指し頑張ってまいります。

また、新潟中越地震、震災の被害者の方々に謹んでお見舞い申し上げます。寒冷地での生活は、非常に大変な事かと存じます。弊社でも、被害者の皆様に対し、何かお力添えできないかと模索しております。

本年も皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

「環境貢献事業」から「社会的責任事業」へ バイオディーゼル事業は生まれ変わる

経済発展と共に地球環境は悪化の一途をたどってきました。これは紛れも無い事実です。

近年、環境問題に対する意識は高まりつつありますが、実際の気候の変化「夏に異常に暑い日が続き、この冬は 12 月下旬にして、関東で半袖シャツでも過ごせる日が何日かありました」身近な環境の変化が人体に与える影響が大きいほど、人間の意識も高くなるそうですが...

今まで、環境問題を取り上げつつも、(この文章を書いている私も含め) 大多数の方が他人事のように感じていたのではないのでしょうか。しかし、地球の環境汚染は、紛れも無く人類の発展と共に大きくなり、私達は今、その責任を取るべき時期に来ているのだと強く感じます。すでに環境貢献などという奇麗な言葉では、解決できない状況まできているかもしれません。

2005 年、「環境貢献事業」から「社会的責任事業」と呼び方を変え、意識の向上を図りその内容も進化させて行きたいと強い思いに駆り立てられます。

これからの事業は「利益追求と環境の責任、社会的責任の両立が不可欠であり」その一端を廃食油再生燃料バイオディーゼルを通じ、担って行きたいと考えております。

酪農家の挑戦！



「私にとって、牛は子供同然です。いい空気を吸いたいのは、人間も牛も同じですよ。」と、酪農業界に新たな挑戦を挑むのは、山形県上山市の酪農家石山隆志、京子ご夫妻。

以前より環境問題には関心を持ち自らできる取組みを実践してきた。山形でのバイオマス事業に関わる活動が盛んになりバイオディーゼルについても研究していたが、装置が高価なこともありなかなか取り組めずじまい。ところがそんな時、レンタル装置の事を知りレンタルであればバイオディーゼル事業を開始。

実際にトラクターに乗られた事のない方は、ご存知ないかと思いますが「トラクターの排気管は、農作物等に排ガスを浴びせないように運転手のすぐ近くにあり、排ガスをまともに浴びてしまいます。ひどい方は、この排気ガスによりゴーグルやマスクが手放せない程です。排ガスをまともに浴びるのは、けっして気分のいいものはありません。

バイオディーゼルの初めてトラクターに給油し使った時のことを今でも覚えています。明らかに嫌な匂いがしない、黒煙が少なかった。これこそ新たな挑戦だと実感しました。また、バイオディーゼルは排ガスだけでなく燃料自体にも刺激臭がなく生分解性が高いので、誤って土壌にこぼしても微生物によって早期に分解され、万が一、牛がこぼしてしまった燃料の場所の土を舐めても大丈夫だから安心です。精製途中に出るグリセリンは、乳牛の糞尿と混ぜて堆肥の発酵促進剤として使っています。グリセリンは無害で生物分解も早いので、みなさんにも使って頂きたいです。

この挑戦を始めてすぐから燃料の注文が相次いだのは驚きでした。皆さんも環境問題に貢献したいのです。自分の手で実感できるのはうれしい限りです。

生産者としてよりよい製品、安心して頂ける製品を提供したいと思うのは、皆さんも同じだと思います。環境問題に対する取組みと本業である酪農をからめ「排ガスのクリーンな酪農」に挑戦していきます。



いよいよ京都議定書カウントダウン

温室効果ガスの削減を掲げた京都議定書が2005年2月に発効する運びとなり、CO2排出量がゼロカウントとなるバイオディーゼルの活用がますます期待されます。

2004 年 11 月、ロシアの批准により、地球温暖化防止にむけた枠組みを定めた京都議定書が、2005 年 2 月によりやく発効する運びとなりました。

京都議定書は 1997 年 12 月に採択され、2008 年から 2012 年までの間に、温室効果ガスの排出量を先進国全体で少なくとも 5% 削減(1990 年比)することが目標とされています。

日本は、2002 年 6 月に京都議定書を締結・批准し、温室効果ガス排出量を 6%削減(1990 年比)する義務を負っています。地球温

暖化の主因である CO2 の排出量は年々増え続けています。この中運輸部門については、2002 年度の CO2 排出量は 1990 年度比で 20%も増加しており、この原因は主に自動車の保有台数や走行量の大幅な上昇によるものです。

このような状況下、バイオディーゼルは単なるリサイクルアイテムではなく、環境問題、エネルギー問題に大きな貢献を果たす事業です。

驚き！感動！真っ黒な廃油が黄金色に！



2004 年は、多数の皆様よりデモンストレーション開催のご要望を頂き、全国各地で一連の精製作業を実際にご覧頂くデモンストレーションを開催致しました。

参加された方々は、真っ黒な廃油が、黄金色の BDF に変わっていく様子をご覧になり、感動すら覚えられたようです。まさに、「百聞は一見にしかず」ですね。

しかし、な、何とした事か！！

12 月に金沢で行ったデモンストレーションにて大失態。原因は反応に使用するメタノールと苛性ソーダの混合ミス。従来機械で行う作業を時間をためて手作業で行い、十分に混合されていなかった事実が判明！

たくさんの方にお集まり頂いたのに、皆様には本当に申し訳ないことを致しました。

せめて場所を提供して頂いた施設の方々には、本来の精製作業をご覧頂くこと、翌日再度実施。急な展開の為、原料不足などがあり、イルカ作業所の田畑所長の応援要請、「俺が本物のバイオディーゼルの見せてやる」と、その夜、名古屋から材料を持ち駆けつけて下さいました。

皆様のご協力もあり、一部の方には本来の精製作業をお見せする事が出来ました。

近日中、再度デモンストレーションを北陸でやります！！

(このままでは社内でも笑い者状態なので・・・BY 担当)



最新トピックス

- ・現代農業 1 月号に掲載
- ・廃食油を燃料化 レンタル式の精製装置登場
- ・知的障害者授産施設 盛岡杉生園(岩手県)で精製したバイオディーゼルの市営バスに使用されることとなり、朝日新聞、岩手日報、ニュースで紹介される。

バイオディーゼル日本横断！計画準備中

バイオディーゼルの製造、給油しながら日本横断を計画しております。

この計画を達成する為には、皆様のご協力が必要です。我こそは、とチャレンジしてみたい方、またご協力頂ける方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡下さい。

「油を売る」の語源？

「油を売る」というと、世間話や無駄話をしたりして時間を過ごすという意味で、「そんなところで油売ってちゃダメだよ」などとあまり良い意味では使われません。皆さん、この「油を売る」という言葉の語源はご存知ですか？油屋さん、行商で油を小分け売りしていた頃の残存ですが、質問です。次のどちらが正しいでしょうか？

(A)油は熱膨張率が大きい。また、油の行商人は柄杓(ひしゃく)で油を測り売りしていましたが、朝の寒いうちに売るよりは、日が昇って暖かくなり、膨張してから売ったほうが得。ですから、午前中は油を販売するより、世間話をして時間をつぶして、暖かくなってからおもむろに販売を始めた。ここから、世間話をして時間をつぶすことを「油を売る」となった。

(B)油を柄杓で計り売りするときに、粘度が高く、ツールと糸を引いてなかなか切れない。柄杓の油が全部注がれるまで、油屋とお客は世間話をしながら待っていた。これが「油を売る」の語源。正解は、(B)でした。さあ、「油を売る」のはこの辺にして精製作業！精製作業！